

戦略ビジョン（仮称）策定プロセスの体系化について

- 「出口を見据えた研究」に係るファンディング施策である戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）では、文部科学省が設定した戦略目標の下、科学技術振興機構が研究領域等を設定することで、京大・山中教授によるiPS細胞の樹立や東工大・細野教授によるIGZO系酸化物半導体TFTの開発など、革新的な研究成果を創出してきた。
- 一方で、GoogleによるSCHAFT社の買収など、隠れたイノベーションの素を発掘しきれていない例もある。
- 戦略的に優れたイノベーションの素を網羅的に発掘し育てる仕組みを強化するため、科研費等の成果の網羅的把握や科学計量学に基づいた世界の研究動向の理解といったエビデンスを起点とした、戦略ビジョン（仮称）策定プロセスの体系化を行う。

STEP1: 我が国の研究動向及び世界の研究動向の俯瞰

我が国の研究動向の俯瞰

- 科研費に係る情報を含む我が国競争的資金による基礎研究の成果等を網羅的に参照できるデータベース（FMDB）を構築。
- FMDBを用いてデータを分析することで、我が国の研究における強みと弱みを把握するとともに、芽吹きつつある研究者の画期的な発想等を抽出。

世界の研究動向の俯瞰

- 最新のWeb of Scienceのデータセットを用いてサイエンスマップを作成。
- 作成したサイエンスマップ等を分析することにより、科学計量学に基づいて、世界の研究動向を把握。

STEP2: 最先端の研究者等の知の糾合

- 最新の研究動向を把握するためのインタビュー対象者を、研究者ネットワークの分析等により抽出。
- STEP1の結果を用いて、学術研究の動向に豊富な知見を有する有識者や第一線の研究者へのインタビューを実施し、インタビューで得られた結果も踏まえて注目すべき研究動向を同定。

STEP3: 科学的な価値と社会経済的な価値の創出を両立するビジョンの抽出

- STEP2の結果を踏まえて、注目すべき研究動向に関する研究者と産業界などのユーザーの対話から、研究を起点とした将来の社会像を描く「未来創発型邂逅（かいこう）プロセス」を実施。
- 邂逅プロセスの結果を踏まえ、研究者による根本原理の追求と社会経済的な価値の創出が両立可能な見据えるべきビジョンを抽出。

エビデンスを起点としつつ、様々な知を糾合した「戦略ビジョン（仮称）」を策定